

特報 ギャラリ―梯子酒新聞

2016年7月17日号

福岡で二度目のアートフェア開催へ
実行委員長・森田氏に単独インタビュー

昨年九月、福岡初となるアートフェア「ART FAIR ASIA / FUKUOKA 2015」がソラリア西鉄ホテルにて開催され、国内外から二七のギャラリ―が参加。予想をはるかに上回る二二〇〇人が訪れ、大きな反響を呼んだ。



「ART FAIR ASIA / FUKUOKA 2015」の展示風景

その興奮も冷めやらぬなか、福岡で二度目となる「ART FAIR ASIA / FUKUOKA 2016」が今年九月にホテルオークラ福岡で開催されることが決めた。六月末の時点で、前回は大きく上回る三八のギャラリ―の出席が決まっており、前回は大幅に上回る来場者が見込まれる。

本誌編集長Nが、「ART FAIR ASIA / FUKUOKA 2016」実行委員長の

森田俊一郎さんにお話を伺いました。
日本人にとってアートとは？

N 森田さんはご自身でギャラリ―を経営されていますが、個人的には、ギャラリ―はすごく敷居が高くて入るのに相当勇気がある場所だと感じます。私と同じような印象を抱いている人は少なくないと思いますが、いかがお考えでしょうか？

森田 日本では「アート作品を買う」という行為が一般市民に根付いていません。五万円、十万円の洋服を自分

のセンスで買うという行為は多くの人が行っていることですが、それに比べると、同じような感覚でアート作品を購入している人は極めて少ないと言えるでしょう。



「Gallery MORITA」の店内

N 日本人にとっては、アートが生活や人生の一部になっていないということですね。

森田 そのとおりです。「アート作品は美術館や博物館で観るものであって、自分で購入するものではない」という認識を日本人の多くが持っていることは、非常に残念なことだと思います。

アートと経済の関係性

N 森田さんは、アートと経済の関係

についても言及されていますね。

森田 欧米では「アートはインサイダーである」という考え方が一般的です。すなわちアートは資産であり投資の対象なのです。欧米の銀行にはアート作品の資産価値を査定することができ、また、香港や台湾のアートフェアに出向くと、政府や自治体の幹部が財界人と一緒に会場を訪れている光景をよく目にしました。アートフェアがその国や地域にとって欠かせないビジネスの場、産業としてとらえられているのです。

N なるほど。日本ではそうした考え方は浸透していませんね。

森田 日本でもアートをビジネスに取り込む動きは始まっています。東京・汐留にあるパークホテル東京は、アートを経営戦略にいち早く取り入れたことで知られています。高層階の客室から順にアーティストが手掛けた、いわば「アーティストルーム」に改装を進めており、その部屋から先に予約が埋まっていくそうです。また、都内の同ランクのホテルと比較して外国人、特に欧米からの宿泊客の割合が大きいという結果も出ています。

福岡でのアートフェア開催

N それでは、今日の本題に入りたいと思います。まずは、アートフェアについて教えていただけますか？

森田 アートフェアとは、現代アートの見本市です。世界中で年間四〇〇ものアートフェアが開催されていて、例えば、スイス北西部の都市バーゼルで毎年開催される世界最大の現代アートフェア「アート・バーゼル (Art Basel)」には、四日間の開催で、バーゼルの人口とほぼ同数の十六万人が訪れています。

N 日本でもアートフェアはよく開催されているのですか？

森田 日本で開催されるアートフェアは非常に限られています。その最大の原因は、日本国内でのアート市場の規模が非常に小さいということ。世界三大アート市場であるアメリカ、イギリス、中国では、年間一兆円から二兆円のアート作品の取引が行われているのに比べ、日本ではわずか五百億円にとどまっているという調査結果があります。

N 日本ではアート作品の買い手が非常に限られているということですね。

森田 そのとおりです。日本の特に東京や大阪に拠点を置くギャラリーは、生き残るためには海外に打って出るしかないという瀬戸際の状況にあり、海外のアートフェアに出展する日本のギャラリーは年々増えています。

N そうした状況の中、なぜアートフェアを福岡で開催することができたのですか？

森田 昨年福岡でアートフェアが実現した要因は二つあると考えています。一つは福岡がアジアに近いこと。そしてもう一つは福岡アジア美術館の存在です。世界最大級のアジアの現代美術コレクションを誇る福岡アジア美術館の存在は国内外のアート関係者から非常に注目されています。



福岡アジア美術館

また、かつて、関東のあるアート関係者と会話を交わすなかで、「福岡アジア文化賞」という賞を福岡市が設けていることを大いに称える発言があったことも強く印象に残っています。こうした背景があつて、アートフェアが福岡という都市で開催されることに對して、国内外のアート関係者が一斉に注目したということが言えると思います。

N それでは、最後に、この秋開催される「ART FAIR ASIA / FUKUOKA 2016」の見どころを教えてください。

森田 見どころは人それぞれです。ホテルのワンフロアがアートフェア会場になっており、一つの部屋が一つのギャラリーの展示スペースになっています。会場を巡りながら自分のお気に入りの作品を見つけたいと思えます。もちろん展示している作品を購入することも可能です。

N 会場を訪れるのがとても楽しみになってきました。本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。



AFAF
ART FAIR ASIA FUKUOKA 2016

9/9 fri ※ PREVIEW
9/10 11 sat sun

ART FAIR ASIA FUKUOKA 2016

■ 開催日程 2016年9月9日[金]・9月11日[日]
プレビュー / 9月9日[金] ※ 招待者・プレス関係者のみ
一般公開 / 9月10日[土]・9月11日[日]
■ 会場 ホテルオークラ福岡 福岡市博多区下川端町3-2
〒812-0027 Tel:092-262-1111(代表)